

# 白ネギ 10月どり新品種 ‘名月一文字’

## 1 新しい品種の内容

### (1) 背景・目的

弓浜砂畑地域における10月どり作型は、主に‘夏扇パワー’を栽培している。‘夏扇パワー’は高温乾燥に強いが、多湿に弱く、集中豪雨が頻発する近年において、特に排水不良畑で生産不安定になっている。また、草丈、葉長が長く、台風等の強風被害を受けやすい問題がある。そこで、高温多湿に強く、コンパクトな草姿で、多収が得られる品種を選定したので紹介する。

### (2) 品種‘名月一文字’の特性

- ・高温期の多灌水条件下において、夏越し生存株率および上物収量は低下せず、早期収量が増収した。また、灌水無し（高温乾燥）では‘夏扇パワー’より夏越し生存株率および上物収量が劣るため、弓浜地域の湿地畑、乾燥畑での灌水栽培に向くと考えられた。
- ・草丈、葉長が短くコンパクトな草姿である（写真）。



## 2 試験成果の概要

### (1) 夏越し生存株率

2016年から2020年までの5年間、‘名月一文字’（タキイ種苗）と‘夏扇パワー’（対照、サカタのタネ）を栽培し、夏越し率を調査した（図1）。2月中旬に播種（200穴、4粒/穴）、4月下旬に定植（定植間隔10cm）した。試験圃場は排水が良く、集中豪雨で滞水した場合も1日以内に解消するため湿害が生じにくく、高温期は乾燥傾向にあった。

2018年以外の年は、灌水無しで栽培した結果、夏越し率は、乾燥に強い‘夏扇パワー’が高かった。2018年は、高温期に多灌水（連日10mmの散水）した結果、夏越し率は‘名月一文字’が高かった。2020年は、灌水無し区と高温期の多灌水区（50mm/日、8月16～19日、8月24日～27日の計8日間散水）を設けて比較した結果、灌水無し区では‘夏扇パワー’、多灌水区では‘名月一文字’が高かった。

### (2) 収穫時の草姿・生育

‘名月一文字’は‘夏扇パワー’に比べ、草丈、葉鞘長、葉長が短く、コンパクトな草姿であった。葉鞘径、1本重は同程度、葉枚数は1枚程度多かった。強風被害を受けにくく、台風対策等の省力化につながると考えられた。

### (3) 収量特性

2020年灌水無し区での‘名月一文字’の収量は（図2）、‘夏扇パワー’に比べ10月6日は低収だったが、10月19日には多収となった。一方、多灌水区での‘名月一文字’の収量は（図3）、10月6日、10月19日ともに多収となった。

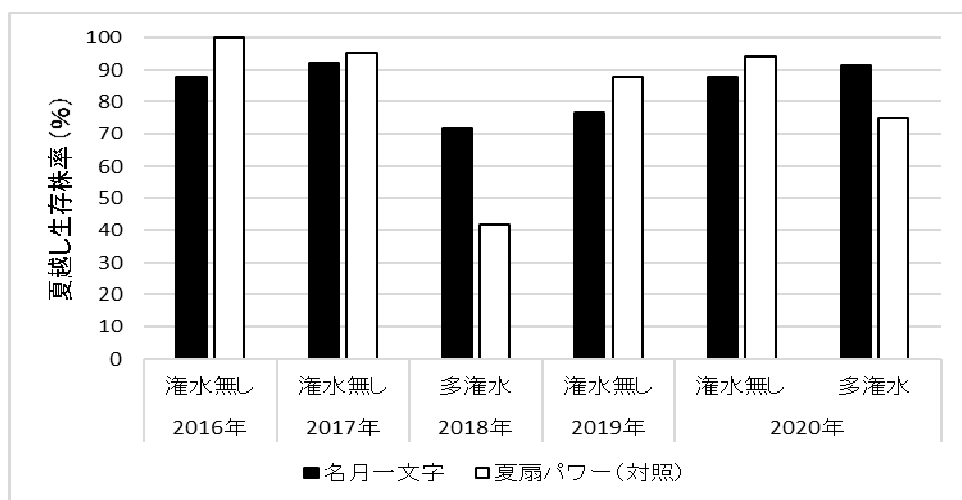


図1 各品種の夏越し生存株率 (%)

$$\text{夏越し生存株率} = (\text{収穫時の生存株数}) / (\text{7月下旬の生存株数}) \times 100$$

表1 収穫時の草姿・生育

2020年10月6日調査

品種	草丈 (cm)	葉鞘長 (cm)	葉長 (cm)	葉鞘径 (cm)	葉枚数 (枚)	1本重 (g/本)
名月一文字	76.1	35.9	40.1	16.6	6.4	140.0
夏扇パワー(対照)	90.0	39.0	49.9	17.0	5.0	145.0
分散分析	*	n.s.	*	n.s.	n.s.	n.s.

2020年灌水無し区のデータ、分散分析:n.s.有意差なし、\*5%レベルで有意差あり

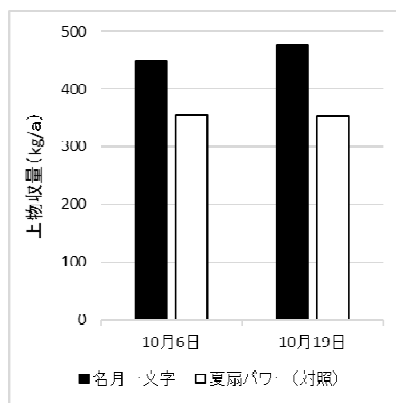
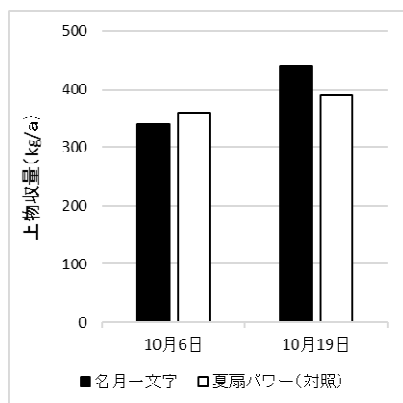


図2 上物収量 (2020年灌水無し区)

図3 上物収量 (2020年多灌水區)

### 3 利用上の留意点

- (1) 本試験は、弓浜砂丘地域 (砂丘未熟土) における試験結果であり、他の地域 (土壌) については別途検討が必要である。

### 4 試験担当者

弓浜砂丘地分場 主任研究員 井上 浩  
研究員 梶本悠介